

令和4年3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 福井県福井市大手3丁目17番1号  
管理機関名 福井県教育委員会  
代表者名 豊北 欽一

令和3年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

2021年4月1日（契約締結日）～ 2022年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 福井県立丸岡高等学校  
学校長名 島田 芳秀  
類型 グローカル型

3 研究開発名

持続可能なふるさとの豊かな営みを創出するグローバル人材の育成

4 研究開発概要

- (1) 文理融合のカリキュラム研究開発と国際協働探究学習の推進
- (2) 社会にイノベーションを起こす地域リーダーの育成
- (3) 留学生の受け入れとグローバル人材の育成
- (4) コミュニケーション能力を重視した英語の授業実践
- (5) 探究的な学びを指導できる教師の育成
- (6) ポートフォリオの研究・開発
- (7) 18年型探究学習モデルの研究・開発

5 学校設定教科・科目の開設、教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している ・ 開設していない
- ・教育課程の特例の活用 活用している ・ 活用していない

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
----	------	----

藤岡慎二	北陸大学 教授	運営指導委員長
加藤重信	元ヨルダン特命全権大使・元シドニー総領事	
三田村彰	福井大学連合教職大学院 教授	
木村優	福井大学連合教職大学院 准教授	
吉田英史	福井県教育総合研究所 新教育課程課課長	
三上寛司	坂井市総合政策部企画情報課 課長	
坪川義彦	あわら坂井ふるさと創造協議会（アズAS） 福井銀行丸岡支店長	
遠藤貴広	福井大学連合教職大学院 准教授	
松田通彦	福井大学連合教職大学院 客員教授	
小和田和義	福井大学連合教職大学院 客員教授	
西川満	福井大学連合教職大学院 客員教授	

## 7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
福井県教育委員会	教育長 豊北欽一
坂井市	市長 坂本憲男
坂井市議会	議長 古屋信二
坂井市教育委員会	教育長 川元利夫
あわら坂井ふるさと創造推進協議会（アズAS）	会長 坂本憲男
坂井市まちづくり協議会	会長 坂本憲男
丸岡ロータリークラブ	会長 東角操
（一社）丸岡城天守を国宝にする市民の会	会長 松本富男
ほくりくちいきたんきゅうエコシステム	代表 木村優
福井県立丸岡高等学校	校長 島田芳秀
福井県立丸岡高等学校PTA	会長 北出晋吾
坂井市立丸岡中学校	校長 水持直幸
坂井市立丸岡南中学校	校長 柳原潤一郎
坂井市立平章小学校	校長 甲斐和浩
坂井市立長畝小学校	校長 山本一郎
（台湾）高雄市立福誠高級中学	校長 蘇清山

## 8 カリキュラム開発専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	木村優	福井連合教職大学院 准教授	丸岡高校に勤務する 大学院生（教員）の 指導教官のため、謝 金不要
カリキュラム開発専門家	藤岡慎二	北陸大学教授	都度依頼し謝金払い
海外交流アドバイザー	王林鋒	福井大学連合教職大 学院 特命助教	都度依頼し謝金支払 い

地域協働学習支援員	竹吉 睦	丸岡ロータリークラブ (学校教育担当)	都度依頼し謝金支払い
地域協働学習支援員	田川裕大	一般社団法人BEA U理事	都度依頼し謝金支払い
地域協働学習支援員	林裕也	ご当地アイドルヒーローはっぴーすまん	都度依頼し謝金支払い

## 9 管理機関の取組・支援実績

### (1) 実施日程

業務項目	実施日程									
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
研究所の支援	指導主事派遣	指導主事派遣		指導主事派遣						
合同発表会支援		合同中間発表会								合同発表会

### (2) 実績の説明

- ①管理機関（コンソーシアム含む）における主体的な取組について
  - ・継続的な取組を行うための教員の人事面における配慮として、加配を行う
  - ・県教育総合研究所の新教育課題研究課が研究開発の支援を行う
- ②事業終了後の自走を見据えた取組について
  - ・県教育総合研究所の新教育課題研究課が継続して研究開発を支援する
- ③高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について
  - ・令和元年度に（台湾）高雄市立福誠高級中学とフレンドシップ協定

## 10 研究開発の実績

### (1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
「総合的な探究の時間」における探究学習	1回	3回	4回	4回		2回	3回	4回	1回	3回	1回	2回
学校設定科目「グローバルスタディー英語」における探究学習		2回	2回	1回		1回	2回	2回	1回			
学校設定科目「グローバルスタディー社会」における探究学習	1回	2回	4回	1回		3回	4回	5回	1回			

部活(地域協働部 や ESS 部) による グローバル活動	1回	6回	5回	3回	7回	3回	3回	5回	4回	3回	2回	3回
海外研修プログラム			1回	1回	1回			1回	1回		1回	1回
丸高カレッジ(市民講座)			1回	1回			1回	1回	2回	2回	2回	1回
JKB(教員の資質向上)	2回	1回	2回	1回		1回	2回	2回	1回	1回	1回	

## (2) 実績の説明

### ① 研究開発の内容や地域課題研究の内容について

#### 【地域課題研究の内容】

本校では「ア 地域や世界と関わりながら、自分で考え、主体的に責任をもって行動できる力、イ 多文化共生社会をめざし、外国人と協働して課題を発見し解決できる力、ウ 世界的な視野で地域の資産を生かして、新しい産業を生み出す企業力」を育むことを目標としている。学年ごとに身につけてもらいたい資質・能力をさらに細かく設定し、生徒との共通理解のもと探究学習を進めている。

1年次では、「地域へアクセスする力」「情報収集・活用する力」「主体性・責任感(Agency)」の3つを目標に掲げて、地域の現状や課題について理解する活動に取り組んだ。

2年生では、「SDGsについて正しく理解し、粘り強く課題に取り組む行動力」「SDGsの観点で地域の課題を発見し多面的に考察する力」「他者と協働し成果を発信する表現力」「地域の一員として持続可能な社会づくりに貢献しようとする意識」を目標に掲げた。将来の夢について考え、課題解決に貢献できるよう地域社会と連携して活動することを目標に取り組んだ。

3年生では、「最後までやり遂げる実行力」「問題点を発見し解決できる力」「持続可能な地域社会を創造する力」「共同エージェンシー(Co-Agency)」を目標に掲げ、生徒一人ひとりが地域課題の解決に向けた実践を通して地域と主体的に関わりながら進路を実現することを目的に取り組んだ。

#### 実施計画概要(2年生の例)

月 日	学習テーマ	概 要
4月～7月	課題解決型学習 「SDGsについて学ぶ」 ①～③ 【講義】 【演習】 【ポスターセッション】	1年次のローカルな視点での学びから、2年次においては、グローバルな視点で地域や世界の課題を掘り下げて解決策を考えた。1学期は、以下の流れでSDGsと地域課題を考える活動に取り組んだ ①本校地域協働コーディネーターによるSDGsガイダンスとグループワーク ②カードゲーム「SDGs de 地方創生」体験 ③地域の課題解決につながる「SDGs de 地方創生アクションカード」作り
7月19日	グローバル中間発表会 【ポスターセッション】	コンソーシアムの方々を招聘して、二交代制で2年生全員がポスターセッションを行った。質疑応答の後、来場者からコメント付き付箋を貼っていただき、いただいたご意見

		を参考に活動の振り返りをした。
9月～11月	課題解決型学習 「地域活性化計画」 ①～④ 【演習】 【フィールドワーク】	1学期末の中間報告会を振り返り、2学期は、自分の進路希望分野に関連した地域活性化案を実現するための活動に取り組んだ。 ①自分の進路に応じたテーマ設定 ②3年生との意見交換会、引継ぎ会 ③協働パートナー探し、アポ取り ④テーマに関する調査と分析
11月18日	市議員との意見交換 【プレゼンテーション】	坂井市の市議員を招聘して、将来の進路と関連したまちづくり活性化案のアイデアを発表し、議員に助言を求めた。
12月～3月	課題解決型学習 「地域活性化計画」⑤ 【フィールドワーク】	市議員との意見交換でいただいた助言を参考に、活性化案を改良し、個人またはグループで成果報告会の準備に取り組んだ。発表の分かりやすさを重視し、Googleスライドを作成した。
3月16日	成果報告会 【プレゼンテーション】	オンライン上で各グループが口頭発表をした。フロアの生徒と質疑応答の後、コンソーシアムの方々から助言をいただいた。

#### 実施計画概要（3年生の例）

月 日	学習テーマ	概 要
4月～6月	課題解決型学習 「地域活性化を目指して」①～③ 【フィールドワーク】	3月の中間報告会でコンソーシアムの方々からいただいた助言を参考に、具体的な活性化案の実現に向けて活動に取り組んだ。 ①調査活動の継続 ②県内の留学生との意見交換 ③協働パートナーとの実践
7月13日	「講座内報告会」 【プレゼンテーション】	全58グループが、これまで取り組んできたM-PROJECTを省察し、報告した。またプレゼン資料作りや報告会を通して、更に自身の取り組みを深掘りした。各講座の中から優秀な実践を行ったグループを校内代表セレクションに選出した。
7月14日	校内代表セレクション 【プレゼンテーション】	各講座代表の計10グループから3年生最終報告会で発表をする2グループを選出した。またセレクションを通して、更に自身の取り組みを深掘りした。
7月19日	3年生最終報告会 (グローバル中間報告会) 【プレゼンテーション】	校内代表セレクションに参加した10グループのうち8グループは、午前中に全校生徒に向けて発表した。午後のグローバル中間報告会では、校内代表に選出された2名が、全校生徒および来校者に向けて発表を行った。会場では運営指導委員との質疑応答を公開した。

#### ②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け

- ・1～3年の総合的な学習（探究）の時間に実施
- ・学校設定科目「グローバルスタディー英語」「グローバルスタディー社会」での実施

#### ③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

- ・美術科・書道科・音楽科が、教科横断型学習「校歌表現コンクール」を実施。
- ・英語科と社会科が、国内外でSDGs推進に取り組む企業訪問を実施。

#### ④地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

- ・福井大学連合教職大学院に現役教員を院生として派遣し、大学院と協働してカリキュラム

開発を推進していく。

⑤学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

教員を8つのチームに編成し、各責任者のもと研究開発を行う。教員だけではなく、事務室の職員も研究を支援する。

【研究開発チーム】

- ・事務局チーム：事業全体を総括、各事業の進捗状況の管理、企画立案、県外視察者の対応
- ・海外協働ユニットチーム：海外研修、異文化交流などの企画運営
- ・地域協働ユニットチーム：丸岡城サミット、丸高カレッジ、議会塾などを企画運営
- ・Mプロジェクトチーム：1～3年の総合的な学習（探究）の時間の企画運営
- ・学校設定科目チーム：英語科、地歴公民科を中心に学校設定科目の研究
- ・研究チーム：教科横断型授業やカリキュラムの研究
- ・発信チーム：研究紀要の編集、広報誌の発行
- ・検証・評価チーム：運営指導委員会の企画運営
- ・会計事務チーム：事務室の職員を中心に予算や決算などの会計事務を行う

⑥学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

- ・校内に教員の自主研究会（JKB：授業力向上研究会）を組織し、本校の取組を検証・評価、改善していく。
- ・本校教員1名を福井大学連合教職大学院の院生とし、連合教職大学院と協働して本校の取組を検証・評価、改善していく。
- ・県教育総合研究所の新教育課題研究課が、担当職員を継続的に派遣し、本校の取組を検証・評価、改善していく。
- ・地方創生探究学習の推進に貢献した「OECD 日本イノベーション教育ネットワーク（ISN）ISN2.0」の後継事業である「きょうそうさんかくたんきゅうねっと（KSTN）」に参画し、本校の取り組みを検証・評価、改善していく。

⑦カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

- ・丸岡ロータリークラブと協働して、学校設定科目「グローバルスタディ英語」「グローバルスタディ社会」のカリキュラム開発を行う。

⑧類型毎の趣旨に応じた取組について

- ・「学校設定科目」

2年次に「グローバルスタディ英語」を履修した文系生徒が引き続き3年次に「グローバルスタディ社会」を履修した。前年度にグローバルな視点でSDGsについて学んだことをもとに、今年度は社会貢献と自己実現を関連づけながら学習を進めてきた。またルーブリック評価を生徒自身で作成することで、深い学びの評価について理解を深めた。

- ・「台湾の高校との協働事業」

オンライン交流の回数を前年度よりも増やし、また小グループでの交流形態を中心に実施したことにより、生徒一人あたりの発話量が増えた。テーマは以下の通りであ

る。(ア) SDGs の「住み続けられるまちづくり」をテーマにしたプレゼンテーション動画共同制作、発表。(イ)「ネット犯罪」の実態や人々の意識調査を国別に比較検討したプレゼンテーション動画協働制作、発表。(ウ) コロナ禍の対応や政策の国別比較や意見交換。

- ・国際フェスティバルへの参加

県国際交流会館の国際フェスティバルで、本校2年生制作の「丸高版 SDGs プロジェクトカード」の展示、探究活動紹介動画の紹介。

#### ⑨成果の普及方法・実績について

- ・本校でのグローバル事業などを紹介した「丸高グローバル通信」を毎月発行し、地域の中学校、市役所、図書館、公民館、バスターミナルなどで掲示・配布（39号まで発行）
- ・学校ホームページ、フェイスブック、インスタグラム等での配信
- ・テレビ・ラジオへの出演（福井テレビ、福井放送、FBC ラジオ、NHK、坂井ケーブルテレビなど）中でも、「丸高カレッジ」として年間を通じてケーブルテレビで公開講座を放映したことで、本校の教育内容についての認知度もアップし、本校と市民との距離も近くなった。
- ・新聞への掲載（福井新聞、日刊県民福井）
- ・坂井市の広報誌への掲載
- ・吹奏楽部が中心となり、放送部などが協力して複数回実施した「お城のまちのコンサート」では、本委託事業を通じて生徒たちが身につけた多方面の力を結集してイベントを成功させたことで、地域の中で認められるとともに、あらゆる年代の本校応援団を増やした。
- ・全国規模で実施されるイベントである「お城 EXPO」に参加することで、本校の独自のカリキュラムや、そこで身につけた力をより多くの方々に発信することができた。

#### 1.1 目標の進捗状況、成果、評価

- ・生徒たちが地域や社会でおこっている出来事に関心がある
  - 目標 30%
  - 実績 69%
  - 評価 目標達成
- ・県内の進学・就職率
  - 目標 60%
  - 実績 52%
  - 評価 目標達成せず
- ・海外の高校生などと実際に、またはオンラインで交流した回数
  - 目標 5回
  - 実績 12回
  - 評価 コロナ禍により目標設定を変更し、目標達成
- ・外部人材が本校に活動に参画してくる人数
  - 目標 35名
  - 実績 76名
  - 内訳 企業（IT 企業、銀行等）40名 坂井市議会10名 地域コーディネーター6名

丸岡城を国宝にする市民の会 5名 坂井市役所職員 10名  
SDGs ファシリテーター 3名 丸岡ロータリークラブ 2名

評価 目標を大きく上回り達成

・成果の発表回数

目標 6回

実績 18回

内訳 台湾との協働オンライン発表、高校生ボランティア・アワード 2021、Glocal High School Meetings2022、1年生ポスターセッション、2年生ポスターセッション、中間発表会、成果報告会、2年生による市議員への地域活性化案の報告会

評価 目標達成

・新しいカリキュラム開発のための検討会の回数

目標 4回

実績 7回

内訳 学力向上研究会（JKB）主催の教員研修会

評価 目標達成

・地域と協働した活動回数

目標 10回

実績 52回

内訳 3年生 M-PROJECT、丸岡バスターミナル地域イベント、地元中学校訪問、福井国際フェスティバル 2021、丸岡鎧着初式、高校生グルメ to go コンテスト、EXPO2021、城小屋マルコでの活動、コミュニティセンターでの活動、称念寺おもてなしボランティア、百口城主プロジェクト、丸高カレッジ T キャンプとの交流、高校生そば打ち福井県大会、そば打ち体験会、清掃活動、お城のまちのコンサート

評価 目標を大きく上回り達成

・社会参画意識に関する意識調査（「私に関わることで、社会状況が変えられるかもしれない」と考える生徒数）

目標 62%

実績 59%

評価 目標達成せず

<添付資料> 目標設定シート

## 1.2 次年度以降の課題及び改善点

### 課題や改善点

- ・本校の理念に基づく研究成果の継続と、スクールミッションの具現化
- ・変化する社会への対応力を持ち、広い視野で課題解決し、新たな価値を創造できる自己肯定感の高い生徒の育成を目指した、新コースの学校設定科目「みらい」のカリキュラムマネジメントと評価
- ・学校の持続的発展のための生徒確保の方法として、「地域みらい留学」への参加
- ・生徒と地域のニーズに合った連携をマッチングすることを目的とした、コンソーシアムの構築

**【担当者】**

担当課	福井県教育庁高校教育課	T E L	0776-20-0549
氏 名	野村 俊夫	F A X	0776-20-0669
職 名	高校教育課 主任	e-mail	t-nomura-cz@pref.fukui.lg.jp